

令和 5 年度

「いわての復興教育」

実践事例集



令和 6 年 3 月
岩手県教育委員会

「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」実践事例

学校名：宮古市立川井小学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

宮古市川井は、海から遠い山間部に位置しており、東日本大震災では津波による被害は受けなかった地域である。また、現在本校に在籍している児童は、東日本大震災以降に生まれていることもあり、震災当時の被害状況等を実際に見たり聞いたりする機会が少ない環境にいる。これまでの学習では、「震災遺構たろう観光ホテル」や「震災メモリアルパーク中の浜」などの施設に行き、当時の被害の様子や復興の取組などを学んできた。

今回の災害や復興に関わる学習では、震災学習列車を活用し、川井地域と似たような状況下で後方支援活動に取り組んだ遠野市と、普段の避難訓練を大切にしていた釜石市について学ぶことで、大きな災害に備えて、これから自分達に何ができるか考えることを目指した。

II 取組の概要

1 ねらい

- ・震災学習列車に乗車し、東日本大震災の被害の様子や復興への取り組みを学習することを通して、自然災害への理解を深めたり、防災に対する意識を高めたりする。
- ・復興に向けての支援について学ぶことを通して、人とのつながりや関わり方について学び、自分達の行動を振り返るきっかけとする。

2 具体的な取り組み

(1) 事前学習

今まで学習したことを確認した後、これから見学に行く遠野市と釜石市の震災当時の状況について、復興教育副読本「いきる・かかわる・そなえる」を活用したり、インターネットを使ったりして調べた。

学習内容	児童が調べた事
ア 東日本大震災について、今までの学習で調べた事、分かった事	<ul style="list-style-type: none"> ・最大震度が7の大きな地震があり、その後に津波がおそってきた。 ・地震で建物がこわれたり、津波でまちがこわれたり、人が大勢亡くなったりした。東北で被害が多かった。 ・たろう観光ホテルがその時のまま残されている。

イ 釜石東中・鵜住居小の合同防災訓練から、大切だと思った事	<ul style="list-style-type: none"> ・津波にそなえて訓練していたところ。 ・想定にとられないこと置かれた状況で最善をつくすこと。自分から逃げること。 ・中学生たちの行動が大切だと思った。
ウ 遠野市の後方支援活動について分かった事	<ul style="list-style-type: none"> ・津波が起きることにそなえて訓練をしていた。 ・被災地に食料や支援物資を届けたり、ボランティアの活動をしたりした。 ・たくさんのおにぎりを作って届けた。
エ 遠野市の後方支援活動について、さらに知りたい事	<ul style="list-style-type: none"> ・薬や食料などをどうやって調達したのか。 ・ボランティアはどういうことをしたのか。 ・その時、子どもはどうしていたのか。

(2) 震災学習列車活用スクール当日の活動内容

ア 遠野市後方支援資料館での講話と見学

- ・東日本大震災以前から取り組んできた災害支援の訓練や準備についての資料、映像
- ・東日本大震災当日からその後に取り組んできた沿岸被災地後方支援活動に係る資料、映像

イ いのちをつなぐ未来館での講話と見学

- ・釜石市内における東日本大震災の被害状況、津波による被害が大きくなりやすい地形、津波による被害の歴史、震災が発生してからの救助活動や復興の様子
- ・「鵜住居地区防災センター」での悲劇と、防災や避難に関わる正しい知識の大切さ

- ・釜石東中学校・鵜住居小学校が行っていた避難訓練の内容や、震災当日の避難の様子

ウ 震災学習列車での講話

- ・実際に被災した場所の見学（列車内から）
- ・震災当時の被害の様子と現在の様子の比較、被災地の現状や課題などの説明

(3) 事後指導

震災学習列車活用スクールを通して分かった事をまとめたり、自分達にできる事は何か考えたりした。

振り返り	児童の記述
ア 震災学習列車活用スクールを通して分かった事	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から自分で考えて行動することが大事。 ・ここが安全という所は無いから、まず自分から逃げたり避難したりしないといけない。 ・万が一のことも考えて避難訓練をしておくことが大事。 ・自分の意見をしっかり言うことが大事。 ・鵜住居で学んだ「避難3原則」が大事だと思った。 ・津波が来た場所も来なかった場所も、協力して復興に取り組んでいたことが分かった。
イ 災害時、または災害に備えて自分達にできる事	<ul style="list-style-type: none"> ・災害用の持ち出し袋を用意しておく。 ・避難訓練をしたり、家族で避難する場所を決めたりしておく。 ・家族で避難訓練を試みる。 ・被害を受けた人達のために何ができるか考えたい。
ウ 学習全体を通して考えた事	<ul style="list-style-type: none"> ・災害があった場所がどのくらい大変だったか、どんなに頑張って復興したのか知って、災害は怖くていつ起きるか分からないから、事前の備えが大切だと思った。 ・災害時にあったことを後に残して、人に伝えていくことも大切なことだと思った。 ・遠野市の後方支援が素晴らしいと思った。日々の備えや積み重ねが大事だと感じた。 ・また災害が起きた時に、ボランティア活動や募金をしてみようと思った。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- ・遠野市の後方支援活動について学習したことで、東日本大震災の被害の様子だけでなく、被災地を支援した地域の取組や、関わった人々の思いを知ることができた。
- ・遠野市の災害に対する備えについて知ることで、いつ起こるか分からない災害に対しては、みんなで協力して取り組んでいく必要があることが分かった。
- ・釜石市で起きた避難に関する悲劇について知ることで、避難するときに気を付けなくてはならないことや、正しい知識の大切さに気付くことができた。
- ・釜石市の小、中学校で行われている避難訓練について知ることで、自分から進んで逃げる事、避難する際は油断しないこと、普段の備えが重要であると実感することができた。

2 課題

- ・東日本大震災の被害の様子や、復興への取り組みについて理解を深めることはできたが、学んだことを自分たちの生活にどう生かすか、また、次に起こる災害に備えて、何をすべきか等、具体的な取組を考えていきたい。
- ・総合的な学習の時間と関連させて、学んだことを自分達の住む地域の防災に役立てていきたい。

